

## 目標達成計画

作成日：平成 27 年 12 月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	更に地域に根ざす為に、今後時間をかけ介護相談室の開設や介護説明会等を行い、地域に貢献する事が目標となる。	地域の行事等に積極的に参加し交流を深め馴染みの関係作りを目指して行く。	6～12ヶ月
2	4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	議題に介護の基礎知識、介護業界のトピックス、オレオレ詐欺対策を追加する等、実のある会議運営を心がけ、サービスの向上に活かす事を心がける。	運営推進会議は色々な専門者とサービスの実際や評価への取り組み状況への意見や助言、評価について話し合う場所としサービス向上に活かしている。	3ヶ月
3	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期の有り方について、早い段階から本人・家族と話し合いを行いながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	全職員が関わって作成される終末期支援についての同意書や各種マニュアルの整備により、職員の介護技術が向上し、利用者が更に安心して生活できる環境となることを目標とする。	緊急時の対応の同意書は現在頂いている利用者と確認取れていない利用者がいて今後全ての利用者家族から同意書を頂き利用者が更に安心して生活できる環境となることを目標とする。	6ヶ月
4	35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が非難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在5日分の備蓄はあるが、出来れば7日分の備蓄が必要の為近日中に購入し、地域から頼りにされる事業所を目指していく。	防災訓練を重ね、自主訓練の一環として停電を想定し1口ガスコンロを用いてカップラーメン、レトルトなどを摂取したりして訓練を行い食料や水などは今後備蓄していく。	3ヶ月
5	36	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応している	利用者との現場を配慮しながらの会話は、介護技術の一つとして職員のコミュニケーション力を高めます。持っている知識を活用できるよう今一層職員研修に取り組む等、介護・接遇技術の向上を目標とする。	拘束虐待防止委員が毎月開催され各フロア会議でトップダウンして「です」「ます」調を毎回のテーマとし丁寧語を統一していき職員の介護・接遇技術の向上に取り組んでいく。	6～12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。